

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
39

2015 弥生・卯月

道院をつくる喜び

信頼する同志とともに
己を磨き、力を養う



信頼する同志とともに 己を磨き、力を養う

にしじんきた
西陣北道院



「“できない”と“できるけどしない”は違う」と話す川上道院長。最初から心が負けていて逃げ回る人生ではなく、自分で選べる人生を歩みなさいと説く。



来れば必ず誰かがいて、
人生を豊かにしてくれる場

24時間365日、専有道場の最大の利点はいつでも好きなように気兼ねなく使用できることにある。仕事と家事を両立するお母さん拳士もいれば、夜10時半過ぎに残業を終えて駆けつける拳士もいて、それぞれ自分の生活のペースで道院に来て修行に励んでいる。また、道院には実業団少林寺拳法部支部長や大学少林寺拳法部監督などの兼籍者もいる。師僧の下で技法の神髄に触れられることと、多様な年齢の人がいるアットホームな雰囲気の魅力だという。

7時半過ぎから拳士が集まり始めるが、来た人から修練を始め、帰る時間も人それぞれ。9時ごろに行う鎮魂行のみ全員一緒だが、内容もペースも各自が考えて進める。

拳士たちは道院を次のように言う。「生活の一部」「いい仲間が集っていて安心感があり、でも緊張感もあり、刺激をもらえる場」「いつ来ても、誰かがいてくれて、心が休まります」「来る度、自分の成長を感じることができます。人生を豊かにしてくれる重要な存在」。

「自分で決めて判断する力を手に入れたほしい」という川上鐘成道院長の指導方針が、伸び伸びと拳士の個性を育んでいる。

同志と楽しく修行する中で、 自分の可能性を広げる



拳士の声「春日部道院長は技も教えも熱心で、学んでこられたことを私たちに丁寧に教えてくださいます。皆と一緒に上達を目指しているので、集中して楽しく修練できます」

道院を つくる喜び

道院では、教えも技法も、金剛禅を丸ごと伝えることができる。信頼できる同志が集う道院で、拳士は心を磨き、明日への活力を養う。道院で充電できるから、社会で活躍していける。金剛禅が指導者への道といわれるゆえである。今号では、先頭に立ち範を垂れる導師と頼もしい同志が集う、京都府の西陣北道院と三重県の四日市僧伽道院を紹介する。

よっ か いちさん が 四日市僧伽道院

「常に先頭に立って修行する先達者であるよう心掛けています」という春日部裕樹道院長。平日、会社から帰宅後は修練日でなくても、できるだけ道場で用事を済ませるようにし、仕事などで忙しい拳士のために修練日以外でも修練できる体制をとっているという。道院長の姿勢はそのまま拳士に伝わる。拳士は皆、熱心で、道院は厳しいながらも和気あいあいとした、心地よい修行空間となっている。

僧階への取り組みも積極的だ。僧階補任のためのレポート研修会を、春日部道院長が講師となり、小教区で行っている。四日市僧伽道院の拳士は半数以上が僧階を有している。

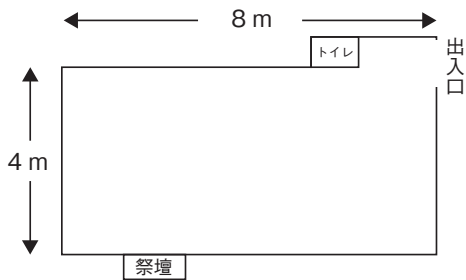
「道院で学んだことが社会で生かして楽しい」「他人の幸せを考える心の余裕が出てきたと思う」「悩みや問題に対して、一つずつ自分でいろんな考え方ができるようになり、生きるのが楽になった」「人頼みでなく自分で責任をとる、と考え方が変わった」「金剛禅で目指すべき自分が見えてきた」と拳士は言う。

道院にはさまざまな考え、背景を持った人が集まる。多様性に富み、調和のとれた道院で、拳士は自分の可能性を広げていく。

道院をつくる喜び

西陣北道院

建築関係の仕事をしている川上道院長が、自宅兼事務所の一室を道場に改装。道場はもう少し広げる計画もあるという。通りに面した二面がガラス張りの大きな窓で、明るく開放的である。



かわかみ しょうせい 道院長
川上 鐘成

1952年7月生まれ。399期生
少法師正範士七段
1999年2月、道院長交代により西陣北道院道院長に就任

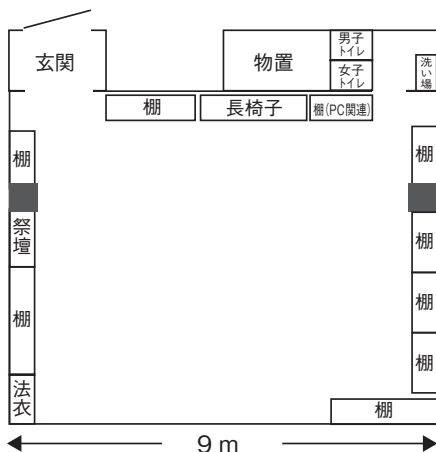
「ここでは子供と大人が密につながっており、少林寺拳法に限らずいろんなことを教えてくれます」と拳士が言うように、道院では心豊かな生き方、信頼関係の築き方などさまざまなことを学べる。悩みを相談することもでき、何より、皆でワイワイと過ごす時間は身心のリフレッシュになる。川上道院長は常に拳士との対話を心掛けており、人との間合いや調和の生き方を、自分の経験で伝えているという。

道院長交代後すぐ自宅に専有道場を構えた川上道院長。単に借りに行くのが嫌だったからというが、拳士にとっては仕事などで遅くなっても来ることができ、人と会ってストレス発散できる第二の家となっている。

西陣北道院は横のつながりもしっかりしている。川上道院長が道院長を引き継ぐ前から西陣北道院にいる拳士を筆頭に、拳士皆が道院長を盛り立てている。明末夫人は一番の協力者である。

「技術もさることながら教えも、私なりのいろんな思いを伝えていく楽しさがあります。金剛禅はどう生きるかを問う宗教。今生きている人を大切に、悔いのない生き方をしたいと思います」と川上道院長は言う。

四日市僧伽道院



自宅の1階が道場。道場には看板犬のランちゃんがいる。人が来ると吠えて知らせる優秀な番犬でもあるが、修練が始まるとケージに入り、おとなしく皆の様子を見ている。



かすか べい ひろき 道院長
春日部 裕樹

1961年8月生まれ。346期生
少法師准範士七段
2003年10月、道院長交代により四日市僧伽道院道院長に就任

「自宅1階が専有道場になったことでやりたいことがすぐに実行できるようになった」と春日部道院長は言う。プロジェクトを使った学科やDVD視聴も容易になった。長机を出せば皆で飲食もできる。2014年には道場で「専有道場建設4周年記念パーティー」を開催し、大いに盛り上がったという。

道院長を引き継いでしばらくは、儀式の度にマイクロバスを借りて、礼拝施設のある先代の専有道場まで50分かけて移動していた。2007年から、修練場所近くに専有道場探しをしていたが、スペースと家賃の見合うところはなかなか見つからなかったという。そんなとき、幸子夫人から「(夫人の)貯金を出すので自宅兼道場を建てては」という提案があり、夢が実現したのである。

もともとは人前に出るのが苦手が目立たないタイプだったという春日部道院長は、まさか自分が道院長になって人前で話をするようになるのは想像すらできなかったという。道院長が努力し自ら変わる姿は、拳士に大きく影響する。「来るだけで楽しい」と拳士が言う四日市僧伽道院は、互いに切磋琢磨する修行の場となっている。



開祖語録 ダイジェスト

1975年8月10日
第2次指導者講習会

しかし、道歩いててもねえ、誰かと顔が合うたときに、向こうがジロツと見た、こっちもジロツと見て、ニコツと笑えるような人、この中に何人おるかな。まあ、諸君はかなり私に近づいてきたかもしれんけど、誰かと顔が合うたらすつと視線を伏せる人が案外多いですよ。本当に胸を張って、人の前へ出て言いた

生きがいというものをどうして見つけられるかというたら、最小限度食えて、そうして、食うために働くというのは惨めだから、人にばかにされないで、むしろ頼りにされたり、尊敬されて、それで胸を張って生きて歩ければ、私はこれでいいと思う。

人前で言いたいことが言える

しかし、道歩いててもねえ、誰かと顔が合うたときに、向こうがジロツと見た、こっちもジロツと見て、ニコツと笑えるような人、この中に何人おるかな。まあ、諸君はかなり私に近づいてきたかもしれんけど、誰かと顔が合うたらすつと視線を伏せる人が案外多いですよ。本当に胸を張って、人の前へ出て言いた

諸君が少林寺拳法の指導者というかぎりにおいては、我々の運動は単なる宗教運動ではない。偶像あるいはえたいの知れない神様か仏様を信じるではなくてね、自分を見つめ、自分を尊重すると同時に、人間、人を尊重して、協力しながら幸せな世の中をつくろうではないかと、この運動を始めている。

少林寺拳法は、単なる武術のように、相手をやっつけたり、どっちが強いかというのじゃないんだと。我々が他の人に影響を与えるには相応の説得力がなきゃいかん。それには知識の裏付けが必要である。

ふだん着の 金剛禅

総務部 部長 堀家 富世

明るく、優しく、 朗らかに！

「お母さん、何か怒ってる？」「今日機嫌が悪い？」。娘から言われる言葉にハッとさせられることがよくあります。そう言われるのは、大抵心にゆとりがなく、眉間にしわを寄せて難しい顔をしているときです。家庭でも職場でも、心配事があつたり、思うように物事が進まなかつたりすると、ついしかめっ面をして周りを不愉快にさせていることに改めて反省する日々です。日常のさま

ざまな出来事に対し、心にゆとりを持って接したいと思いつながら、理想と現実の難しさを痛感しています。「我が我がのががを捨てて、お蔭のお蔭のげで暮らせ」。昔、祖父から聞いた言葉です。自分中心の傲慢な心(我)を捨てて、謙虚に、感謝の心で暮らす。毎日無事に仕事ができるのも、職場の上司や仲間、そして家族が理解してくれるお蔭です。本山に入所して29年、仕事でくじけそ

うになったとき、私に勇氣と元氣を与えてくれたのは、その時々に関わる人からの優しい笑顔でした。「深刻な顔したって世の中変わりやせん。やっぱり朗らかに楽しく、いつ会うても、ああ、明るい人だなあと思われる、そういう顔、生き方をしないか」という開祖の言葉を肝に銘じ、周りに勇氣と元氣を与えられる人になるよう精進します。明るく、優しく、朗らかに！

「自己確立」と「自他共楽」

自利と利他という言葉がある。一般的に自利とは自分の利益のこと、私利ともいい、利他とは自分を犠牲にして他人の利益を願うこととある。ところが仏教辞典で調べてみると、仏教的立場からやや違った解釈がなされており、以下のように訳されている。

自利とは自己の修行により得た功德を自分だけのものとして受け取ること、また仏道修行によりよい結果をもたらし、己の成仏を目的とすることにある。利他とは自己の善行功德によって他者を救済すること、他者に施すこと、また己の利益だけに止めないで他人の救済に限りなく尽くすことにある。そして、自利と利他の両者を完全に両立することが大乘仏教の理想とされている。故に自利利他とは自分のみが利益を得るのではなく、他人にも利益を与え、仏教という修行をして悟りを得、他人には仏法による教化で救いを施すこととなる。

このように仏教的な自利と利他は対義語ではなく一つの熟語であると考えられる。自利利他は自行化他、自益益他、自利利人ともいわれる。

さて、我々が常日頃目的としている「自己確立」と「自他共楽」について考察してみよう。

我々は日々の少林寺拳法修練により、自信と勇気と行動力に加え相手のことを本当に思いやれることのできる慈悲心を芽生えさせ、揺るぎない自信を身につけることができるのである。当然のことではあるが、日々の修練により昨日の自分より今日の自分、今日の自分より明日の自分と、少しでも己自身をよりよく変革していくことが最も重要なことであり、その積み重ねが技術の上達(向上)になり、自信の裏付けにつながっていくのである。

しかし、我々は単に揺るぎない自信の下に「自己確立」さえすれば修行が完結するわけではなく、日々真摯な気持ちと誠実さを忘れず修行を重ねることにより相手のことを本当に思いやることのできる「自他共楽」の道を目指していくことができるのである。

ともすれば揺るぎない自信が身についたことにより、我々の修行が完結したと勘違いしてしまうが、それは言いかえれば「自己満足」でしかなく本当の「自己確立」ができたとはいえない。修行には終わりがなく、生涯を懸け

て常に自分自身と向き合い、そして見つめ直していくことが我々の修行である。開祖宗道臣禪師が常日頃、事あるごとに「一生が修行である」と言われていたことの本意はここにある。

「自己確立」と「自他共楽」は別々のように見られるが、実は表裏一体であり、どちらか一方が欠けても我々の修行は完結しないのである。自利と利他が一体であるように、「自己確立」と「自他共楽」も一体であり、究極は「自己確立」＝「自他共楽」となりえるのである。

生きているのも自分、生かされているのも自分であることに気付く、そこには他者の力により共に生きていることに喜びを感じるのとが、自力の中の他力であり、また他力の中の自力であるといえるだろう。

自分がいるから相手も成長し、相手がいるから自分も成長できるのだ。何だか禅問答のようになってしまったが、これが我々の求めている「自己確立」と「自他共楽」なのである。

皆さん、「自己確立」「自他共楽」、この二つの大道を迷うことなく、踏み外すことなく進んでいきましょう。



道



ダーマを意識し、日々、進化する

酒田中部道院道院長 鈴木信一

少林寺拳法創設時から開祖のお膝元で修行された先生の言葉で、いつまでも新鮮で強烈に心に残っている言葉があります。「開祖は日々変わっていった。毎日おそばにいてもそれをひしひしと感じさせてくれた。私は変わっていく開祖に触れることが嬉しく、一つ一つまねをしようと努力をしてきた」。帰山のたびに、宿舎で一手二手と技を教わりながら、ぼつりぼつりと語られた言葉です。また、この先生と同じ年代の先生ですが、当時既に今の私よりお年を召していたものの、「私は今でも毎日進化しているぞ」と若輩の私に生き生きとお話してくださいました。

私が初めて帰山し、開祖にお目にかかったのは、今から半世紀近く前の学生合宿です。そこでの開祖法話、「金剛禅運動」「行動せよ」……、全てがびっくりでした。当時の大学少林寺拳法部では当然のことでしょうが、初めて金剛禅をバシッと突きつけられたようなものです。でも、同時に私たち学生一人ひとりの心に響き、容量の大きなバッテリーを頂いたことにもなります。あれから、実業団支部、支部道場、道院と形態を変えながら、この地で少林寺拳法の普及、金剛禅の布教に携

わってきました。なんと幸福なことだろうと思います。振り返れば、スタート時は修練場確保もままならず、公園の広場で修練し、雨が降ったら休み、という時期もありました。でも、拳士たちはひるむことなく燃えていました。青臭いけど火の玉になっている私たちの志、行動に、一人二人と徐々に心強い理解者協力者が現れ、修練場確保はもとより後援会組織も立ち上げてくださいました。その間、開祖法話で「何かやろうと決めたら好きなものを断てー」と聞いたその日に、タバコをきっぱり断りました。私の身体改造・精神改造の第一ページだと思っています。金剛禅運動を拡大し、持続して発展していく道のりは、紆余曲折、山あり谷ありです。組織として機構改革を確実にして、名実共に金剛禅運動を推進するには、私たちが布教者としての意識を確立しなければなりません。

学生時代、英作文の授業でreform(改革)と書くべきところを、revolution(革命)と間違えて表現して担当教授から、「近頃の学生はこのように思い上がった者が多い」とにらまれた苦い経験があります。しかし今、布教者は金剛禅運動というよりはあえて金剛禅

革命という意識を持って行動すべきではないかと思えます。開祖は金剛禅が目指すのは、「教育によって緩やかに世の中を変えていく革命だ」とも述べています。

目を道院に転ずれば、少年拳士からシニア拳士まで、一人ひとりが自分に合った生涯修行に向かい合っています。道院から地域社会に金剛禅を浸透させるには、拳士・保護者も広告塔になっていただくこと。それには、開祖のように、技術も学科も一人ひとりの心に響く指導で接することだと思っています。山形県出身の井上やすし氏の「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く」、みんなにダーマを実感してほしいと思っています。そして、このことが強力な布教の原動力になると確信しています。鎮魂行を重視し、常にダーマの存在を意識していることで、私も「日々進化している」と実感しています。冒頭ご紹介しました先生たちにはまだまだ及びませんが、修行を怠らず、研鑽を重ね、誰もがダーマを実感し、我はダーマとともにあり、そして日々進化する喜びを実感できるように、今後とも分かりやすい指導を心掛けていきます。

ダイジェスト

×



志をつなぐ

ふじもと よしまさ
藤本 義政 134期生
大導師大範士八段

ひたむきに歩んできた少林寺拳法人生、
一日一瞬、今を大切に生きる

1960年、初段受験のために本山へ行き、初めて開祖とお会いしました。「組織が大きくなろうとするこの時期、有段者であることの自覚を持ちなさい」。人づくりによる国づくり、天下国家を語る開祖のお話に使命感をかきたてられ、気力が満ちてくるのを感じました。

21歳で四段のときに道院長となり、道院設立や交代をしながら、常

に二つの道院を運営していました。少林寺拳法一筋に打ち込んでこれたのも、会社や家庭の環境に恵まれたからこそと感謝するばかりです。指導者が燃えているから周りにも火がつくと思います。人生はあっという間、今この瞬間を大切に、面授で伝え続けていきたい。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼1978年、姫路城迎賓館で開祖ご夫妻と。

前列右は藤本夫人



ダイジェスト

×



道院長

vol.24

元気の素

とうえんだいと
東遠大東道院
道院長 福田 有希 (42歳)

努力は必ず報われる
思ったら行動あるのみ

——道院長になってよかったことは何ですか。

修練場所がない、拳士がいない、とまさにゼロからのスタートでした。10年以上が経過し、専有道場も建った今では、拳士も60人を超えるようになり、「悪戯だった子が落ちていた」消極的だった子が少し積極的になったなどの評判が、拳士や保護者以外からも耳に入るようになっています。

——将来、道院長を目指す全国の拳士にエールをお願いします。

「道院長になりたい」と思ったら行動あるのみです。努力しただけ報われるという醍醐味は、一拳士・幹部のとき以上です。まずは一歩踏み出してみましょう。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



静岡県教区

宗門の行を見る聞く
考える感じる触れ合う

2014年11月30日、静岡市北部体育館にて本山より西尾武総代をお招きし、金剛禅総本山少林寺公認静岡県教区講習会と鈴木義孝先生講演会の2本立ての講習会を行いました。初めての試みということもあり、僧籍編入を勧めることも一つの目的に、「金剛禅って何？」というテーマで募集したところ、本県のみならず他県からの参加者もあり、120人という規模で行うことができました。

見習いから高段者まで初心に返って「宗門の行」を見る聞く考える感じる触れ合うといった感覚をフルに使った内容でした。8時間に及ぶ日程でした



が、「あつという間に終わった」「来年もぜひ」などの感想を頂き、充実した時間を過ごすことができました。

また、鈴木義孝先生講演会では、教典からの繙き、当時の先生方にしか知られていないお話などをしていただき、大変興味深い内容でした。少林寺拳法草創期を知ることができ有意義な講習会となりました。

(藤森正和)

奈良信貴道院

楽しくそして真剣に！

11月9日、三郷町スポーツセンターアリーナにて、2014年金剛禅総本山少林寺奈良信貴道院演武発表会を開催しました。三郷町長はじめ多くの来賓の先生方にご出席いただくとともに、保護者や休眠拳士にもご参加いただき、一年間の修行の成果を発揮しました。今年は「楽しく」をコンセプトに、レクリエーションの部では玉入れを取り入れ、真剣に行う演武の部とメリハリのある演武発表会を行うことができました。

玉入れでは、少年拳士チームと少年拳士の保護者チームで対戦。籠の高さに差をつけたり、籠を動かすなど保護者チームに

はハンデをつけたのですが、楽しんでいる少年拳士チームに比べて、真剣かつ積極的だった保護者チームに軍配が上がりました。保護者の方々も体を動かして楽しんでいただけました。

また、たくさんの方々の演武を見ていただけるよう、組演武では、兄弟演武と親子演武も行いました。少年拳士は、団体演武以外に少年拳士全員で行う集団行動演武も行い、楽しんで子供の成長を見ていただけました。

更に、技法紹介の部では、川口宗勇道院長に、技の解説ではなく、技が成り立つ原理原則について説明していただきました。あつという間の二時間でした。

(金本誠夫)

大阪平野道院

縁を広げる1年に

1月4日、新春法会ならびに吉田秀樹先生追悼法要を、来賓の先生方、拳士保護者合わせて100人を超える参加の中、開催しました。

まず皆で餅つきをし、その後大阪平野小教区として、10月17日に満50歳で志半ばにして他界された吉田秀樹先生(八尾東道院道院長、前大阪平野小教区長)の追悼法要を行いました。導

師に川添浩史大阪平野小教区長(大阪平野道院道院長・八尾東道院道院長代務)、脇士に杉原正哉権中導師、室賀昭人少導師を中心に挙行しました。おののが改めて吉田先生の志を引き継ぐ決意で法要に臨んでいました。また、佐々木正大阪府教区教区長より供花を頂戴しました。

新春法会では道院長より大阪平野道院の50年記念行事や今年のテーマ「強固な縁」が発表されました。そして昨年一年間頑張った方々に感謝状を授与し、新体制の発表を行いました。気持ち新たに頑張っていこうと決意しました。

(川添浩史)

久留米南道院

金剛禅式結婚式

久留米南道院で幼少のころから修行をしている高嶋徹郎さんと、趣味の音楽活動で知り合った幼なじみの近藤あい子さんが、金剛禅式結婚式を11月22日に行いました。桃島貞幸久留米南道院道院長が導師を務め挙行され、幹部指導者や出席者の皆から祝福を受け、新郎新婦はお互い相手を思い合う合掌礼の気持ちに大切に家庭を守り社会に貢献したいと誓っていました。

(森山裕民)

INFORMATION

2015年勤続表彰

(順不同)

●55年

田村 道明(高松中央道院)
篠原 正(綾歌道院)
西村 建夫(高知南国道院)

●50年

片桐 義雄(北斗道院)

秋吉 好美(多摩豊田道院)
牧野 清(西陣道院)
有馬 正能(西宮西道院)
今井 明雄(明石道院)
高山 恒一(生駒道院)
小池 孝忠(岡山中央道院)

●45年

甲斐 哲夫(苫小牧中央道院)
中平 新一郎(練馬道院)
加藤 喜博(横浜 港道院)
佐藤 一司(横浜寿道院)
松木 長實(鷺沼道院)

柿沼 實(東戸塚道院)
小池 靖彦(伊那道院)
近藤 三之(遠州袋井道院)
永田 憲一(山科道院)
鈴木 宏(洛南道院)
市川 昌弘(田辺西道院)

小笠原 國勝(和歌山宮道院)
森川 久義(岡山玉原道院)
高橋 貞夫(呉広道院)
長田 正紀(山口西京道院)
佐伯 敬三(聖島道院)
本田 演昭(壬生川道院)
池本 孝一(高知野市道院)
佐藤 健二(福岡西道院)
中村 征男(筑前中部道院)
西原 良輝(久留米道院)
瀬戸口 信夫(伊万里道院)
後藤 正人(鹿児島錦江道院)
●40年
岸本 秀明(札幌南道院)
酒田 政明(名寄ピヤシリ道院)
渡辺 司(福島双葉道院)
谷田川 正(茨城大野道院)
倉田 幸明(埼玉狭山道院)
大野木 惠三(埼玉鶴瀬道院)
藤田 守(豊島道院)
西山 信夫(東京ひばりヶ丘道院)
伊藤 昌昭(久米川道院)
形屋 信二(江東砂町道院)
福島 偉勢男(湘南茅ヶ崎道院)
遠藤 八郎(横浜山元道院)
徳長 仁(長岡城西道院)
安島 隆夫(金沢城西道院)
堀江 正美(越前府中道院)
廣瀬 修治(岐阜東道院)
竹岡 幸徳(伊豆下田道院)
朝倉 康夫(豊橋東道院)
池田 昭雄(洛陽道院)
奥村 真邦(京都乙訓道院)
峠 徹(京都京極道院)
大津 好央(大阪津田道院)
古谷 康雄(大阪金岡道院)
西村 軍平(春木道院)
榎本 博志(奈良西道院)
田中 正則(水島中部道院)
竹内 琢磨(美作勝央道院)
庄野 雅巳(貞光道院)
安田 壽廣(福岡若獅子道院)
●35年
成田 實(札幌北都道院)
岡部 好孝(盛岡中部道院)
松川 守(松戸学法道院)
高橋 功(千葉富来田道院)
永井 奨武(東京千代田道院)
井神 健二(名古屋瀬古道院)
中村 健次(東近江道院)
西村 萬壽雄(大阪住吉道院)
小林 登(大麻道院)
安藤 武(徳島渭東道院)
藤田 武夫(徳島国中寺道院)
鎌田 智(高松木太道院)
喜田 良延(高松南道院)

桜木 照彦(佐賀二里道院)
山井 辰夫(宇佐道院)
●33年
村中 洋介(那須大田原道院)
●30年
宮末 政則(北見道院)
古舘 純一(十和田道院)
菅原 利則(岩手水沢道院)
澁谷 大司(多賀城城南道院)
斎藤 幸男(秋田北道院)
佐藤 典之(秋田仁賀保道院)
山口 孝東(水郷潮来道院)
舩生 雅秀(栃木鹿沼道院)
高橋 公一(上州白根道院)
小林 清松(千葉小見川道院)
水野 剛俊(船橋宮本道院)
小野 政則(千葉袖ヶ浦道院)
笹井 清司(鎌倉道院)
越前 嘉彦(相模津久井道院)
飯村 繁徳(白山加賀野道院)
今井 健(西可児道院)
柳川瀬 一美(四日市道院)
近藤 栄吉(三重嬉野道院)
中山 文夫(三重千種道院)
桑原 博之(大阪城東道院)
荒木 敬(大阪恵我ノ荘道院)
今井 偉夫(大阪富木道院)
米田 友厚(榛原道院)
堀田 晋(大和新口道院)
田村 彰浩(紀州本町道院)
大田 勝則(鳥取気高道院)
北尾 正勝(島根江津道院)
大谷 保正(出雲道院)
脇坂 秀雄(広島高陽道院)
清水 孝美(徳島南道院)
栄枝 寿彦(土佐西部道院)
古賀 正博(佐賀三神道院)
小中尾 善満(長崎大島道院)
松永 克明(佐世保南道院)
肝付 兼規(都城東道院)
●21年
植木 勝(真岡中部道院)
●20年
荒城 文広(恵庭道院)
石渡 勝也(札幌新川道院)
中村 克二(八戸岬道院)
坂本 元洋(青森西道院)
小林 佳久(大館三ノ丸道院)
小松 照義(福島鮫川道院)
小倉 伸宏(二宮中部道院)
萩原 直樹(前橋中部道院)
菊地 君夫(熊谷北道院)
木内 常之(埼玉大井道院)
本田 志夫(千葉匠達道院)
八巻 哲(東京錦糸道院)
中島 正樹(八王子富士森道院)

大久保 義隆(八王子東道院)
柏井 伸一(報徳桜井道院)
片桐 敏彦(八百津道院)
倉知 三純(挙母道院)
松浦 稔(津島西道院)
林 英雄(愛知美和道院)
向嶋 政雄(稲沢北道院)
林 敏治(愛知小牧道院)
辻村 吉幸(岡崎藤川道院)
遠藤 浩克(名古屋高針道院)
高辻 吉治(大阪北清水道院)
宮内 剛(大阪此花道院)
内匠 文宜(大阪摂津東道院)
奥田 茂宏(大阪都島道院)
瀧井 浩(大阪東淀川道院)
沢良木 茂(大阪摂津和道院)
青枝 増行(阪南舞道院)
安西 淳(上郡道院)
梅里 幸治(高砂南道院)
林 克己(神戸夢野道院)
木村 章一(西宮学文道院)
北村 隆幸(姫路大の道院)
下村 清隆(葛城東道院)
南 潤一郎(東広島道院)
中井 公一郎(さぬき三木道院)
末光 收(伊予松前道院)
片岡 孝雄(高知西道院)
今泉 忠俊(福岡三橋道院)
貞松 茂(佐賀中部道院)
末武 正男(北松福島道院)
村田 郁夫(熊本海西道院)
山本 重光(熊本大津道院)
●10年
柴原 実(札幌芝道院)
蔵重 旨由(恵庭北道院)
櫻田 達夫(青森中部道院)
中川 景季(一関道院)
土橋 賢二(岩手奥中山道院)
佐藤 和一(花巻南道院)
田浦 昇(宮城桃生道院)
佐藤 恭市(山形中部道院)
氏家 淳(福島川俣道院)
小嶋 武志(桐生道院)

小山 勝久(朝霞道院)
藤田 竜太(我孫子道院)
尾山 稔(東京東小岩道院)
大脇 早知子(西東京保谷道院)
竹島 寿彦(練馬旭丘道院)
森 貴臣(横浜緑園道院)
吉田 尚生(川崎小杉道院)
毛呂 文紀(横浜和泉道院)
杉田 康明(長岡不二道院)
渡辺 竜彦(春江南道院)
栄村 薫(福井新田塚道院)
篠田 貢一(岐阜白山道院)
加納 博之(西濃北道院)
斉藤 政実(伊豆長岡道院)
洞口 均(静岡城北道院)
奥村 哲也(津島東道院)
矢部 茂(東海平洲道院)
平井 慎司(愛知朝日道院)
佐野 清隆(美原西道院)
井上 正道(大阪東生野道院)
三角 進弥(尼崎潮江道院)
水田 孝(明石東道院)
後藤 栄一(高砂北浜道院)
新田 福音(淡路中部道院)
林 幸治(西宮用海道院)
藤山 武彦(奈良斑鳩道院)
胡内 克文(奈良安堵道院)
木村 昌幸(奈良あやめ池道院)
森崎 健一(米子祇園道院)
長尾 浩士(広島安佐道院)
木原 康宏(備後神辺道院)
田崎 巧(阿波池田道院)
市村 宣顕(徳島土成道院)
長松 明男(小豆島道院)
丹羽 高広(筑前下原道院)
松林 和弘(諫早西道院)
濱崎 慎太郎(熊本横島道院)
水窪 慎一(熊本玉名道院)

少林寺拳法グループ表彰

古川道院
全国高等学校少林寺拳法連盟
全日本学生少林寺拳法連盟

お布施

▷ 神奈川県教区講習会	80,000円
▷ 静岡県教区講習会	30,000円
▷ 熊本県教区講習会	30,000円
▷ 徳島県教区講習会	30,000円
▷ 福島県教区講習会	30,000円
▷ 鹿児島県教区公認講習会	30,000円
▷ 愛知石畳道院・道院長 中川 勝也(特昇時の帰山)	10,000円
▷ 愛知石畳道院・中川 江利香(特昇時の帰山)	5,000円

3・4月の本山行事 3月15日(日) 帰山 4月12日(日) 帰山

訃報

たきい しげる
瀧井 滋

大阪大正道院道院長、252期生、大導師正範士七段、2014年12月28日逝去、満57歳

編集後記▶年度末である。人はダーマの分霊たる靈魂を所有している。そして人が靈止として生きるための可能性の種子であることを認識し、可能性を一とくろに見ずまだ伸びるであろう自己の可能性を信じ自己を見つめ、気づき行動することこそ一懸念な生き方だと思う。自己の幸せを願い、他人の幸せをも願える心の広い人間づくり。震災から4年、まだまだ人の力が必要である。道院から「愛民愛郷の精神に則り」を実践する真の勇者をもっともっと増やしていこう。合掌 (お)

表紙▶河合 修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。中拳士三段。

金剛禪総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禪総本山少林寺 検索

あ・うん vol. 39
金剛禪総本山少林寺広報誌 2015 弥生・卯月

2015年3月1日発行(奇数月1日発行)

発行人: 浦田武尚

発行所: 金剛禪総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人: 大澤 隆

企画・編集: 金剛禪総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本: (株)ブル・ドック

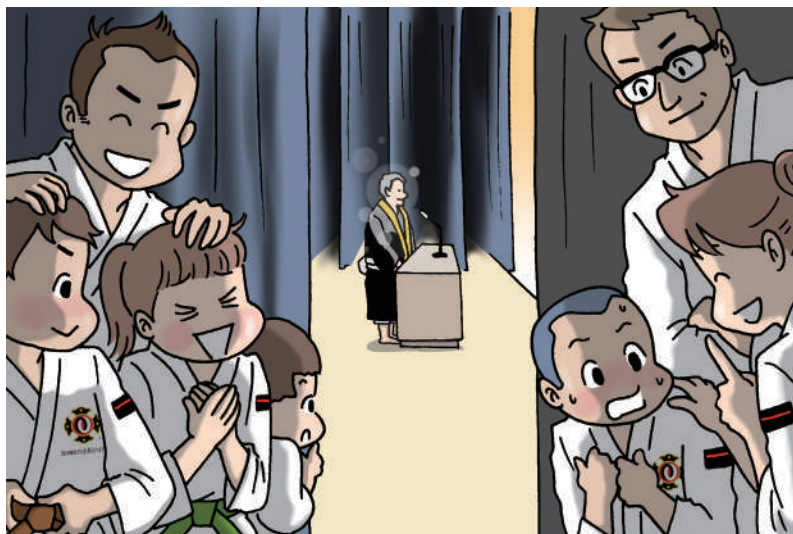
広報誌『あ・うん』追加発送について ◆◆◆◆◆

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき、門信徒10人以上の場合12部ずつ、9人以下の場合10部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただきます。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail: fukyoka@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト/大原由軌子

寝屋川道院 松本 恵美

50年の重み

2014年9月13日、寝屋川道院の50周年式典がありました。当日は、朝早くから準備に取りかかりました。西尾武道院長の願いで寝屋川道院全ての人に役割が与えられており、緊張感の中、皆それぞれに準備していました。その姿に道院長は笑顔でした。正午を回るとたくさんの方々が来られ、道院長と言葉を交わし、思い出話に花を咲かせ、笑顔と笑い声が広がっていました。式典では、まずたくさんの方々のお祝いの言葉がありました。続いて少年部の子供たちの出番、「少林寺拳法と出会って自分が変わったこと」をテーマに発表しました。「だめなことはだめと言えるようになりました」という話が印象的でした。そ

の後には、日々の修練の様子として基本練習や演武を行いました。私も寝屋川道院の一員として精いっぱいを出せたと思います。最も心に残ったことは、寝屋川道院の歴史について。歴代の方々の苦勞話や楽しかった話などをお聞きし、先代の方たちの努力によって今があるのだと思いました。道院長の話で締めくくられ、会場は大きな拍手で埋め尽くされました。道院長がいかに「人と人とのつながり」を大切にしてくられたのかが分かり、この「人と人とのつながり」と「その方たちの努力」、という50年の重みを感じることができました。私も、少しでも寝屋川道院の力になれるよう努力したいと思います。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

Ryuo Ken, Johaku nuki



宗門の行としての少林寺拳法

りゅうおうけん じょうはくぬき
龍王拳 上膊拔

相手が我の上膊を握ってきたときに逃れる技である。押し気味に握ってくるので、やや後方に肘を引きながら、そのまま腕を大きく回して相手の腕にかぶせるようにする。そのまま肘を上方に立て、指先を地面にまっすぐ突き刺すように伸ばすと抜くことができる。この際、手掌を内側に捻（ひね）るように下ろすこと、また僅かに肩を後ろへ逃すようにすると無理なく抜ける。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：飯野貴嗣 准範士六段 攻者：富田雅志 大拳士五段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法